



T O K Y O ROPPONGI ROTARY CLUB

東京六本木ロータリークラブ



『ロータリーは分かちあいの心』

～Rotary Shares～
国際ロータリークラブ会長

発行日 2007年10月22日

No. 12

『一步一步進もう』

～Let's Move Forward Step by Step～
東京六本木ロータリークラブ会長

W E E K L Y R E P O R T



平成19年10月1日
講演要旨『どうなる裁判員裁判』
宇都宮裁判所 所長
園尾 隆司 様



裁判官3人と国民6人で刑事裁判を行う裁判員制度が2009年春から実施される。新しい制度は、趣旨の説明が進むと徐々に理解が深まるものであるが、裁判員制度は、制度広報がされればされるほど、不安だという声が高まるという珍しい展開をたどっている。

1928年、わが国の先輩は陪審制を実施した。東京地裁の第1号陪審事件は、その年の12月に審理開始となった。放火事件で起訴された21歳の若妻は警察での取調べで自白したが、公判では否認に転じ、「自白すれば10日ほどで帰してやると刑事さんにいわれ、3つになる娘に会いたい一心で自白した」と泣き崩れた。5日にわたる審理の後の陪審員の評決は「無罪」であった。その後15年間にわたって行われたこの事件においても、12人の陪審員は誠実に職務を行ったという記録が残っている。80年前の先輩にやれたことが、後継者である我々にできないはずはない。しかし、不安の声は強い。

不安の原因は3つある。1つは、裁判所と国民の距離が遠く、裁判所に呼び出されただけで足がすくむということ、2つ目は、専門用語が難しいこと、3つ目は、守秘義務を負うことである。

裁判所と国民の距離が遠いのは、裁判官が国民の中に出ていけないことが長く続いたことによるところが大きい。この距離は単に裁判員制度を実施するだけでは埋まらない。現に類似の制度である検察審査会制度が60年間

実施されてきているのに、司法と国民との距離は縮まっていない。これを克服するため、裁判官は出前講義の要請を受けて国民の中に出向くようになっている。その回数はここ3年間で5000回に上る。裁判員制度施行後も息長くこのような努力を続けて、あの裁判所にはあの裁判官がいるから出向いてみようかという気持ちが国民の中に湧いてくるようにしたい。国民と法曹との会話が進めば、専門用語もやさしく説明できるようになる。

守秘義務は裁判員制度に暗い影を投げかけている。職務上知り得たことは夫婦間でも生涯話してはいけないというものだから、これまで何一つ秘密を持たなかった私たち夫婦の関係も、もうお終いだというような暗い気持ちになる。しかし、守秘義務というのは、評議で誰がどんな意見を述べたのかを明かさないということであり、その他の経験は、どこで話してもいいし、むしろ裁判員には滅多に選ばれないのだから、職場で経験を話す機会を設けてもらいたいくらいである。この理解が広まれば受け止め方も大きく異なっよう。

※この講演要旨は、卓話者の園尾隆司様より卓話で話された内容を会員の皆様に正確にお伝えしたいとのお話が有り、ご本人が執筆されました内容をそのまま掲載致しました。





■ ニコニコBOX情報

工藤 一枝さん
川口様本日は、ご講演ありがとうございます。

小西 恭子さん
柳さん、こんにちは。すてきな日本の秋を楽しんで下さい。

松本 隆央さん
今月は、誕生日の月でした。20才頃より、精神的に変わってないような気がしていますが、身体はメタボに注意しています

松本 智さん
ジャイアンツ頑張れ！！

三田 大介さん
40才になりました。これからもよろしくお願いします。

小嶋 禮子さん
おなかまの安間様の御不幸は胸が痛みます。
1日も早くお元気になられることをお祈り致します。

岡田 達雄さん
川口様、インターアクトの卓話を楽しみにしています。

中川 勉さん
ひたすら食欲の秋です。

西村 信勝さん
10月は様々な行事がありますが、極力出席したいと思います。

平松 和也さん
昨日は私の誕生日でした。

渡辺 知行さん
今月より入会させて頂きました。どうぞよろしくお願い致します。

渡邊 滋さん
安間家の御不幸に驚いています。心よりおくやみ申し上げます。

立石 有樹子さん
お陰様で、結婚30周年を迎えました。真珠婚と30周年はよぶようです。

浅田 豊久さん
日ましに秋が深まります。

山本 良樹
日本シリーズがまもなくです。

10月15日 合計 83,000円
累計 1,008,500円

■ 本日のプログラム

平成 19 年 10 月 22 日
卓話 『これから10年の日本と世界』
ジャーナリスト
鳶 信彦 様

プロフィール

1967年 慶応義塾大学経済学部卒業。
毎日新聞社入社、秋田支局勤務
1971年 毎日新聞東京本社経済部勤務。
1981年 ワシントン特派員。サミット初めIMF、ガットなどの国際会議を取材。
1983年 ミシガン州フリント市の名誉市長となる。
1987年 毎日新聞社退社、フリーとなる。
現 在 TBSテレビ「朝スパッ!」(木曜5:30)、BS-i「榊原・鳶のグローバルナビ」(土曜8:30)、TBSラジオ「鳶信彦のエネルギーシュート」(日曜23:00)、「ニュースズームアップ」(木曜7:00)のレギュラーのほか「ニュース23」などにも出演。
白鷗大学経営学部教授。
NPO法人「日本ウズベキスタン協会」(TEL03-3593-1400)会長、「財界」「フォーブス日本版」に連載中。先進国サミットの取材は25回に及ぶ。
司法改革国民会議(民間司法臨調)、国土交通省「独立行政法人評価委員会」、内閣「行政減量・効率化有識者会議」の各委員

著 書 「首脳外交—先進国サミットの裏面史」(文春新書)、「鳶信彦の一筆入魂」(財界研究所)、「儲かる感性」(小学館)ほか多数。

URL <http://mainichi.jp/select/biz/shima/index.html>
(鳶信彦のコラム)
<http://homepage2.nifty.com/silkroad-uzbek/index.html>
(日本ウズベキスタン協会)

■ 次回のプログラム

平成 19 年 10 月 29 日
『クラブ協議会』

クラブからのお知らせ

10月15日例会

幹事より

- 10月22日、臨時理事会
(次年度会長・次年度理事候補選考の件)
- 安間会員ご子息の訃報に際し、会員各位へFAXによる連絡後、その受取りについて実態把握が困難であったことから、連絡網を設定することを検討したい。
- ポリオ・プラス・パートナー寄付つき「ボジョレ・ヌーボー」購入の協力を。

東京六本木ロータリークラブ

会長 荻田 吉夫 幹事 岡田 達雄

会報・広報
委員長

安井 悦子

会報・広報
副委員長

片岡 雅敦

事務局 〒106-0032東京都港区六本木6-10-3グランドハイアット東京内 TEL:03-4333-8773 URL:<http://www.tokyoroppongi-rc.jp/>